

## “手術の待期間に関して・・・”

現在、当院の人工関節の手術待ちは、約2ヶ月程度です。骨折などの手術と異なり、人工関節や脊椎の手術はどの病院でも緊急でやる手術ではありませんので、予定の手術枠で行ないます。ですから、専門医が手術をしている病院は、ほぼどこも1～3ヶ月程度の待期間があります。

しかし、この待期間中は意外と重要な期間で、合併症のある患者さんなどはこの間に精密検査や治療を行なう事が出来ます。

虫歯治療や糖尿病、高血圧の薬剤調整などが可能ですし、血を貯めて手術時に自分に輸血する自己血貯血も待期間中に余裕をもって出来ますので、手術を待つ時間は少し苦痛だと思いますが、ご理解のほど、よろしくお願い致します。



## センター長の海外探訪記 “ベネチアの巻”

ベネチアは言わずと知れたイタリアの海辺の歴史ある観光都市です。前回訪れたのは学生時代、そう、30年近く前でした。その時は、小さな運河だらけの街で橋は少なく、地図を見てもどこをどう歩いているのかわからず、すぐ迷子になっていましたが、今はスマホの地図のおかげで迷子にならず、目的地に直で行けて、食堂のメニューもすぐに翻訳可能。便利になったものですね・・・

今回は近くのペローナという街で手術トレーニングの仕事の帰路に半日寄っただけですが、天気も良く知人ドクターらとゴンドラにも乗れてとても良い経験が出来ました。サンマルコ広場、宮殿と大聖堂、ゴンドラ、リアルト橋など、どこから見てもベネチアです。前菜もパスタもワインも美味しく、短時間でしたがとても楽しい時間が持てました。先日、高潮による洪水被害がありましたので、早くあの綺麗な街に復旧してもらいたいものです。



- 人工関節に特化した「人工関節センター」と乳がん診療に特化した「ブレストセンター」を開設しており、より高度な専門医療を提供しております。
- 関節外来：岡 史朗 月・火・水曜午前9時から12時
- 関節外来：相原雅治 水・木・金曜午前9時から12時
- スポーツ外来：大堀智毅 金曜 午後4時半から7時
- 廣瀬毅人 火曜 午後4時半から7時
- 理学療法士：岡本浩明・樋口慧・小山晴菜・藤原由佳子
- 受付時間：平日午前9時～11時半、午後4時半～6時半
- (水曜夜診休診)

土曜午前9時～11時半 (祝日休診)

相原病院・人工関節センター tel. 072-723-9000  
 箕面市牧落3-4-30 fax. 072-723-9052  
 ホームページ: <http://www.aiharahp.com/>

この新聞の名称「ぶらな」とは、仏教の元言語となるサンスクリット語で“空”や“清浄な気”を示す言葉です。我々は、関節や脊椎疾患に負けずに積極的に人生を楽しんでいきたい！と考えている“強い気を持っている方々”を応援する為に、色々な形で情報を発信していこうと考えています。

こんな情報が欲しい、こんな事をして欲しいなど希望がありましたら、お気軽にお伝えください。

## 「ぶらな」

“人生を積極的に生きる人を応援する医療情報誌”

相原病院・人工関節センターはこの10年間、国公立の基幹病院と同じレベルの専門医療を提供しております。

手術件数は大病院と同等以上ですが、リハビリを含めた治療内容は個人に合わせたアットホームな雰囲気を維持しつつ、これからも更に最新で高度な医療を提供し続けることを常に心がけて診療にあたっております。

## “この20年で人工関節って変わりましたか？”

早いもので21世紀となり20年となろうとしています。現在、人工関節手術は日本で年間に膝が約8万例、股関節で約6万例が行われています。1980～1990年代の人工関節は術後のインプラントの寿命が10～15年程度と言われていました。実際にはそれ以上長持ちしている患者さんも多くいたのですが、短期間で入れ替えを要する患者さんが一定数いたことは事実です。

25年前の人工関節の入院期間は股関節が約3ヶ月、膝関節でも約2ヶ月程度でした。股関節は体重をかけないリハビリで開始し、そこから徐々に体重をかけていき、全体重となるのは術後1ヶ月半以降のとても長いリハビリ期間で進めていきました。



股関節は脱臼のリスクがあるので、寝返りや姿勢など入院中に多くの制限があり、不自由を強いる入院期間でした。

膝も術後の痛み止めの薬が今ほど種類が多くなく、術後しばらく痛みでリハビリが進まないことも多々ありました。

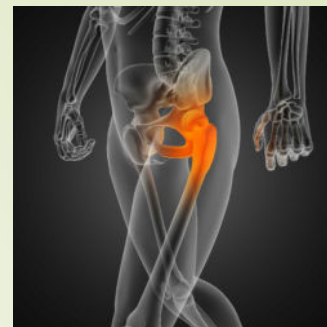
入院期間も長く、制限も多く、将来的には入れ替えの心配がある・・・が人工関節手術のイメージでした。

15年前くらいからリハビリも早くなり、術後の疼痛コントロールに使える薬も増えました。インプラントも長期に耐えることが出来るように素材開発され、インプラントデザインや手術方法も発展させ、様々な制限をなくしていくことが出来ました。

今は術翌日から全荷重で歩行リハビリを開始し、術後の制限もほぼ無くなり、20年以上もつ確率が90%前後となり、人工関節のイメージはこの20年で大幅に変わったと思います。これからも更に皆さんのためって喜ばれる治療となるように切磋琢磨して参ります。



相原病院・人工関節センター新聞  
 第18号  
 令和元年12月吉日



近隣病院の  
 人工関節手術数  
 (平成28,9年)

病院名	症例数
相原病院 (H30年)	212
(H29年)	212
箕面市立病院	34
市立豊中病院	108
市立池田病院	93
大阪医科大学病院	140
宝塚市立病院	71
済生会千里病院	78
済生会吹田病院	116
北野病院	96
関西メディカル病院	32



医療法人 啓明会  
**相原病院**  
 Provides the best medical service

## “令和になりました・・・”

センター長 相原 雅治

啓明会 相原病院は今年で創立45年、人工関節センターを設立してからもうすぐ10年が経ちます。早いもので平成から令和になり、私自身が医師になって25年、四半世紀となります。

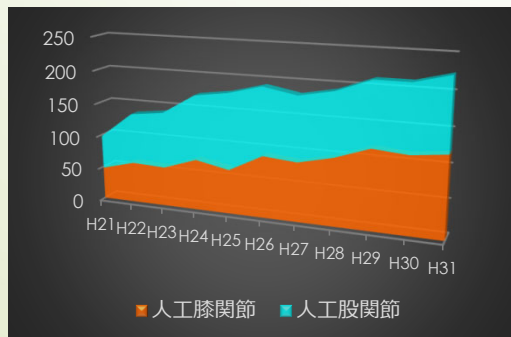
私が医師になった頃と比べて、人工関節の材質やデザインは改良し続け、手術・リハビリなど治療する側も経験と実績を重ねました。研修医時代には人工股関節の入院期間は2ヶ月から3ヶ月ととても長く、術後も脱臼予防で姿勢や日常生活の制限も多くストレスフルな入院期間であったので、「人工関節の手術は最後の手段」と言われていました。しかし、その当時でも痛みがとれて歩くのが楽になるメリットを患者さん自身が感じて下さり、「手術して良かった！」と言ってもらっていましたが、その後に早期リハビリ、術後制限の撤廃などで患者さんの手術に対する心理的抵抗も減ってきました。

以前は「手術したら歩けなくなる・・・」と云うデマも流れていましたが、街中やプールなどで脚を痛そうに引きずっている人に手術を受けた患者さん達が「そんなに痛そうなら、早く人工関節の手術をしてもらったらすごく楽になりますよ！！」と声掛けして下さることが手術数増加の隠れた立役者だと思っています。

北摂には人工関節センターとして専門医療を行っていた病院数は少なく、その中でしっかり足固めをした医療を行い10年前と比べて手術件数は増え、北は舞鶴、南は四国や和歌山からも患者さんに来ていただける病院に育ちました。様々なメディアにも名前が載り、身が引き締まる思いです。更なる10年も、人生を積極的に生きていく方々のお力になれる様に、切磋琢磨し最新の治療技術を皆さんに提供できる様に、医師・看護師・リハビリのチーム一丸で努力を続けていく所存です。



人工関節センター 手術件数



## “第46回 日本股関節学会で発表しました”

藤原 あや

令和元年10月25～26日に宮崎県で行われた日本股関節学会に参加し、初めての学会発表をしました。「手術後の患者さんが悪心・嘔吐をおこすのは何故だろう、何が原因なのか？」に疑問を持ち、患者さんの苦痛を少しでも取り除けたらいいなと思い1年以上前から研究を始め、データ処理からスライド作成や発表原稿作成と当日に向けて、先輩看護師の方々に協力してもらい、日々の業務時間後に何か月も準備をしました。

前日から緊張し、当日には緊張はピークとなり口から心臓が出てくるくらいでしたが、発表自体は思いのほか緊張せず順調に進み、質疑応答でのハプニングも乗り越え、初めての学会発表は無事に終わりました。

当院からは相原先生とリハビリテーション科の岡本先生、樋口先生の発表もありました。相原先生は大きな会場の座長をしていて海外からの先生たちともコミュニケーションを取っていてとてもかっこ良かったです。

他の大きな病院の発表も聞いて知識の習得ができましたが、当院の看護は他の大きな基幹病院に負けないくらい質の高いケアを提供出来ていると実感でき、とても勉強になった事は学会参加のメリットで、これからも自信を持って術前術後のケアを行っていきたいと考えます。



宮崎県には初めて行きましたが、美味しいものが沢山あり毎日お腹いっぱいご飯を食べました。宮崎牛に地鶏の炭火焼きにチキン南蛮に伊勢海老に...毎日とっても幸せでした。チーズ饅頭、日向夏ソフトクリームなどデザートもたくさんあり胃がついていかないのが残念でした・・・

たくさん勉強して、いっぱい美味しいものを食べてと～っても収穫のある学会発表で、準備や発表した努力は報われるんだ！と思いました。

